

河川環境情報図〔広域図〕

平成14年8月2日

近畿地方整備局

河川環境情報図〔広域図〕 揖保川—No. 1

※河川の区域分けとその理由は、揖保川—No. 91に記載

SCALE 1:25,000

感潮域

揖保川本川の浜田井堰、中川の床固めが潮止めとなり、河口よりの感潮区間を形成する。

流れは比較的穏やかで、潮汐の影響を受けて干潮時には中川・元川に千種川や加古川と並ぶ兵庫県有数の干潟が出現する。なお、揖保川本川の八十橋上流部左岸部にわんごによるピオトブづくりが進められている。

本区間ではフクド、アイアシ、ナガミノオニシバ、シオクグ（以上、貴重種）、ヨシ（一般種）等の自然性の高い植物群落や、ハマサジ、ハママツナ、ウラギク等の貴重な植物が多くみられる。

河口域は「改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿2001—」（レッドデータブック近畿研究会、2001）において、「砂地と泥地の河岸・中州が残され、瀬戸内側では少なくなった環境」として保護上重要な地域に指定される等、近畿地方全体からみても自然性の高い地域となっている。

このような自然性の高い環境を反映して、ミサゴ（貴重種）等の鳥類や、トビハゼ、イドミズハゼ（以上、貴重種）等の魚類が餌場等として利用している。また水辺にはマガモ、ヒドリガモ、オナガガモ（以上、一般種）等のカモ類、湛水部にキチヌ、メナダ（以上、一般種）等の魚類がみられる。水際のヨシ群落では、アオモンイトトンボ（一般種）等の水際に生息する昆虫類がみられる。



干潟(中川右岸側2k付近)



わんど(八十橋上流左岸側)

感潮域の底生動物

河口域の泥底には、ヤマトスピオ、ゴカイ、Capitella属の一種などやゴカイ類（多毛類）が多く確認されている。干潟では、ホソウミニナ、フトヘナタリ、チゴガニ、ヤマトオサガニなどの干潟を代表とするマキガイ類やカニ類が確認されている。また、ヨシなどの塩沼植物群落内やその周辺には、カワザンショウガイ、アシハラガニ、クロベンケイガニなどがみられる。



チゴガニ

感潮域の魚類

キチヌ、メナダ、スズキ等の河口域から沿岸部にかけて生息する種が見られ、干潟の泥底ではマハゼやビリンゴ等のハゼ類が生息している。水際のヨシ等の群落はアベハゼ、アシシロハゼ、チチブ等の生息環境になっている。貴重種としては、イドミズハゼ、トビハゼ等が確認されている。



トビハゼ(貴重種)

感潮域の両生類・爬虫類・哺乳類

周辺が市街地や工場になっていることもあり、両生・爬虫類・哺乳類は、あまり見られない。河口部の植物群落や公園等の人工草地でイタチ属が生息あるいは餌場として利用している程度と思われる。

感潮域の植物

河口部は、極めて自然環境が残存している地域であり、近畿地方でも有数の塩沼地植生が成立している。

塩沼植物群落として、フクド、アイアシ、ナガミノオニシバ、シオクグ、ヨシ等がまとまった面積で見られるほか、ハマサジ、ハママツナ、ウラギク等の貴重な種がみられる。



ナガミノオニシバ(貴重種)

感潮域の陸上昆虫類

水際のヨシ群落等では、様々な環境の水域にみられ、汽水域に生息するアオモンイトトンボをみることができる。陸域では、比較的明るい環境を好むヤマトシジミ、ヨモギハムシ、フタモンアシナガバチ等を見ることができる。

貴重種としてキマダラモドキ、ホンサナエが確認されている。



キマダラモドキ(貴重種)



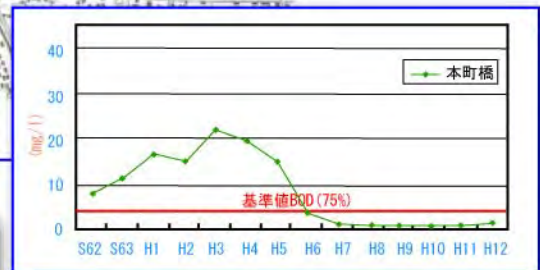
アオモンイトトンボ

感潮域の鳥類

水面ではカイツブリ、カワウ、コガモ、マガモ等のカモ類、カモメ類等、干潟では、コチドリ、イカルチドリ、イソシギ、サギ類等の水鳥が見られる。水面は休息場や餌場として利用され、干潟は餌場として利用されている。ヨシ等の水生植物の群落は、カイツブリ、カモ類、オオヨシキリが繁殖場所として利用している他、セッカ、カワラヒワ、ホオジロ等の草を好む鳥類の生息環境になっている。また、公園やグラウンド等ではスズメ、ドバト、カラス類等の人里近くに生息する種が確認されている。水辺と関わり深い貴重種としては、カワウやミサゴ、チュウサギが確認されている。



カワウ(貴重種)



感潮域を代表する種(一般種より)

代表種	代表種
魚	アオモンイトトンボ
昆虫類	ヤマトシジミ
両生類	イタチ属
爬虫類	イタチ属
哺乳類	イタチ属
鳥	カイツブリ
底生動物	ユリカモメ
植物	カモメ
	コガモ
	マガモ
	ヒドリガモ
	オナガガモ
	コチドリ
	イカルチドリ
	イソシギ
	ユリカモメ
	アマサギ
	ダイサギ
	アオサギ
	コサギ
	カルガモ
	セッカ
	ホオジロ
	カワラヒワ
	スズメ
	ドバト
	カラス類
	ハウセキレイ
	セグロセキレイ

※地図に示す動植物は、貴重種の中にもみる代表種

凡例	
河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
ヨシ原 (一団的なヨシ・ヨシ群落)	■
公園	○
水質測定地点	□
ヒヤリング結果	○

魚類	●
鳥類	◀▶
底生動物	●
両生類、爬虫類、哺乳類	●
陸上昆虫等	●
植生	●

河川環境情報図〔広域図〕 揖保川—No. 2

SCALE 1:25,000

下流域

河川はゆるやかに蛇行し、河床勾配は概ね緩やかである。取水堰が多く設置され、複数の川筋によって網目状に流路が走っている。又、揖保川と中川に分岐点に、大きな中州が存在する。高水敷には揖保川せせらぎ公園、千鳥ヶ浜公園、祇園公園等の公園が整備され、多くの利用で賑わいをみせている。

本区間では複数の川筋や流入部、湧水地の存在を反映して、水際にヒメガマ、イ、キシウスズメノヒエ（以上、一般種）等の群落が見られる。やや安定した堆砂地には、オギ、ジャヤナギ、アカメヤナギ（以上、一般種）等の群落が見られる。貴重な動物ではチュウサギ、ヨシガモ等が見られ、このうちチュウサギは止水域に生息するカエル類等を捕食していると考えられる。貴重な植物では、フトイ、カワヂシャ、ゴキヅル、ミゾコウジュ、カワラサイコ等が見られる。

中州ではエノキ群落が広がり、樹林地性鳥類のキジバト、ヒヨドリ、ウグイスや、哺乳類のヌートリア、爬虫類のクサガメ（以上、一般種）が見られる等、多様な生物が利用できる空間となっている。



下流域を代表する種(一般種)

代表種	代表種	代表種	
魚	カワムツB型 アブラハヤ ギンブナ カワヨシノボリ ウグイ ギギ ナマズ オイカワ ドンコ	ハグロトンボ ギンヤンマ ヤナギンバイ コフキコガネ ショウリョウバッタ トノサマバッタ マメコガネ モンシロチョウ ガガンボ科の一種 ユスリカ科の一種 ヤブクリ キボシカミキリ	底生動物 キイロカワカゲロウ トウヨウモンカゲロウ エルモンヒラタカゲロウ アカマダラカゲロウ ウルマーシマトビゲラ
昆虫	カワヂシャ カワラサイコ ゴキヅル コムラサキ サデクサ タコノアシ ミゾコウジュ フトイ	カヤネズミ タヌキ キツネ カナヘビ コウベモグラ	植物 ツルヨシ ジャヤナギ セイタカアワダチソウ ヤブガラシ カワラヨモギ カナムグラ マダケ モウソウチク ノイバラ エノキ
鳥類	カルガモ コガモ ヒドリガモ カイツブリ セッカ ホオジロ カワラヒワ キジバト ウグイス ヒヨドリ ハクセキレイ セグロセキレイ スズメ ムクドリ カラス類	両生類・爬虫類・哺乳類	

※地図に示す動植物は、貴重種の中みる代表種

下流域の陸上昆虫類

ゆるやかな流れの水域に好んで生息するハグロトンボ、ギンヤンマ等が見られる。草原が多いため、ショウリョウバッタ、トノサマバッタといったバッタ類が見られる。中州の樹林地では、コフキコガネ、キボシカミキリ等の多くの昆虫類が生息する。貴重な種ではゆるやかな水の流れに多く見られるホンサナエ、ゲンバイトンボ等が確認されている。



下流域の鳥類

草本群落ではセッカ、カワラヒワ、ホオジロ等の草を好む鳥類が生息しており、水際のツルヨシ群落はオオヨシキリ、カモ類、カイツブリ等の繁殖場所となっている。また、低木林や竹林ではウグイス、ヤナギ林ではキジバトやヒヨドリ等の好樹林地性の鳥類が生息しており、公園やグラウンド等ではスズメ、カラス類等の人里近くに生息する種が確認されている。水域では、淵等の静水域をカワウ、カイツブリ、カモ類等が休息場所や餌場として利用している。水辺と関わり深い貴重種としては、カワウやミサゴが確認されている。



各生物調査地点	魚類	鳥類	底生動物	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫等	植生
	●	◀▶	●	●	●	●



下流域の両生類・爬虫類・哺乳類

草本群落にカナヘビ、カヤネズミ、コウベモグラ等、ヤナギ林や竹林にタヌキやキツネ等が生息している。また、水辺やツルヨシ等の水生植物付近では、クサガメやヌートリアが生息している。



下流域の魚類(メダカ:貴重種)

全長約3.5cm。口がうけうちで、背中側に黒色のすじがあるのが特徴。水の流れがゆるやかで、浅いところに棲み、ミジンコなどの動物プランクトンや小さな水生昆虫などを食べる。



凡例	
河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	○
鳥類のねぐら	○
ヨシ原(一面的なツルヨシ・ヨシ群落)	■
公園	○
水質測定地点	■
ヒヤリング結果	○

河川環境情報図〔広域図〕 揖保川—No. 3

SCALE 1:25,000

下流域

河川はゆるやかに蛇行し、河床勾配は概ね緩やかである。取水堰が多く設置され、複数の川筋によって網目状に流路が走っている。又、揖保川と中川の分岐点に、大きな中州が存在する。高水敷には揖保川せせらぎ公園、千鳥ヶ浜公園、祇園公園等の公園が整備され、多くの利用で賑わいをみせている。

本区間では複数の川筋や流入部、湧水地の存在を反映して、水際にヒメガマ、イ、キシウスズメノヒエ（以上、一般種）等の群落のみられる。やや安定した堆砂地には、オギ、ジャヤナギ、アカメヤナギ（以上、一般種）等の群落のみられる。貴重な動物ではチュウサギ、ヨシガモ等が見られ、このうちチュウサギは止水域に生息するカエル類等を捕食していると考えられる。貴重な植物では、フトイ、カワヂシャ、ゴキヅル、ミゾコウジュ、カワラサイコ等がみられる。

中州ではエノキ群落が広がり、樹林地性鳥類のキジバト、ヒヨドリ、ウグイスや、哺乳類のヌートリア、爬虫類のクサガメ（以上、一般種）がみられる等、多様な生物が利用できる空間となっている。

下流域の魚類

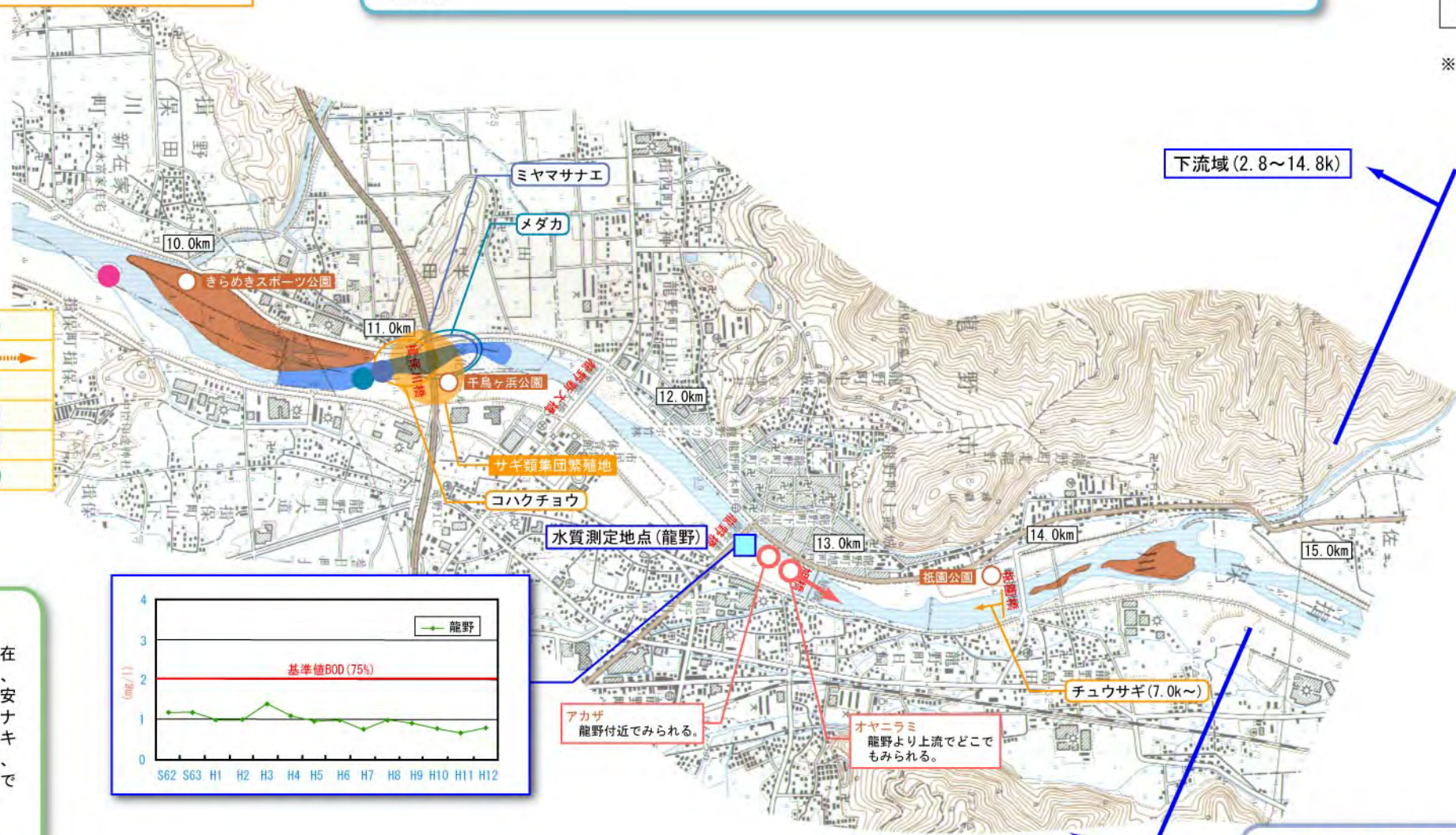
近畿地方の河川の下流域に比較的普通に見られる魚類相となっているが、中・上流域を生息場とするオヤニラミやアカザといった貴重種の生息も確認されている。オヤニラミはヨシ等の水生植物、アカザは浮き石状の礫底に生息している。下流域の瀬では、オイカワ、ウグイ、カワヨシノボリ等が見られ、淵ではカワムツB型、アブラハヤ、ギンブナ等の生息環境になっている。水際に見られるツルヨシ等の水生植物群落は、ドンコ等の生息環境、ギギやナマズ等夜行性魚類の隠れ場所、ギンブナ等の産卵場所、多くの魚類の稚魚の生育場等多くの機能を持っている。また、3kmから国道2号付近までアユの産卵場所となっている。



下流域を代表する種(一般種)

代表種	代表種	代表種	
魚	カワムツB型 アブラハヤ ギンブナ カワヨシノボリ ウグイ ナマズ オイカワ ドンコ	ハグロトンボ ギンヤンマ ヤナギゲンバイ コフココガネ ショウリョウバッタ トノサマバッタ マメコガネ モンシロチョウ ガガンボ科の一種 ユスリカ科の一種 ヤブキリ キボシカミキリ	底生動物 キイロカワカゲロウ トウヨウモンカゲロウ エルモンヒラタカゲロウ アカマダラカゲロウ ウルマーシマトビゲラ
類	両生類・爬虫類・哺乳類	植物	
鳥	カルガモ コガモ ヒドリガモ カイツブリ セッカ ホオジロ カワラヒワ キジバト ウグイス ヒヨドリ	ツルヨシ ジャヤナギ セイタカアワダチソウ ヤブガラシ カワラヨモギ カナムグラ マダケ モウソウチク ノイバラ エノキ	
類	ハクセキレイ セグロセキレイ スズメ ムクドリ カラス類		

※地図に示す動植物は、貴重種の中にみえる代表種



各生物調査地点

魚類	●
鳥類	⇄
底生動物	●
両生類、爬虫類、哺乳類	●
陸上昆虫等	●
植生	●

凡例

河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
貴重種	★
ヨシ原(一体的なツルヨシ群落)	■
公園	○
水質測定地点	□
ヒヤリング結果	○

下流域の植物

下流域は複数の川筋や流入部、湧水地が存在する。この環境を反映して、水際にヒメガマ、イ、キシウスズメノヒエ等の群落や、やや安定した堆砂地にオギ、ジャヤナギ、アカメヤナギ等の群落のみられる。また、中州ではエノキ群落が広がり、哺乳類、両生・爬虫類、鳥類、昆虫類の生息場となる等、多様な生物が利用できる空間となっている。



下流域の哺乳類(カヤネズミ)

頭胴長(鼻先から尾の付け根まで)約6cm。体重7~8グラムの世界一小さなネズミで、背中がオレンジ色、腹部は真っ白となっている。主に河川敷や休耕田、草原に生息し、そこに生えているススキ、オギ、チガヤなどイネ科の葉を利用して、直径10cmくらいの球形の巣をつくる。



下流域の底生動物

下流域の瀬は、比較的流れが緩やかでアカマダラカゲロウが多く確認されている。その他の瀬ではエルモンヒラタカゲロウ、ウルマーシマトビゲラがみられる。淵などの緩流域では、トウヨウモンカゲロウ、キイロカワカゲロウなどのカゲロウ類もみられる。



河川環境情報図〔広域図〕 揖保川—No. 4

SCALE 1:25,000

中流域

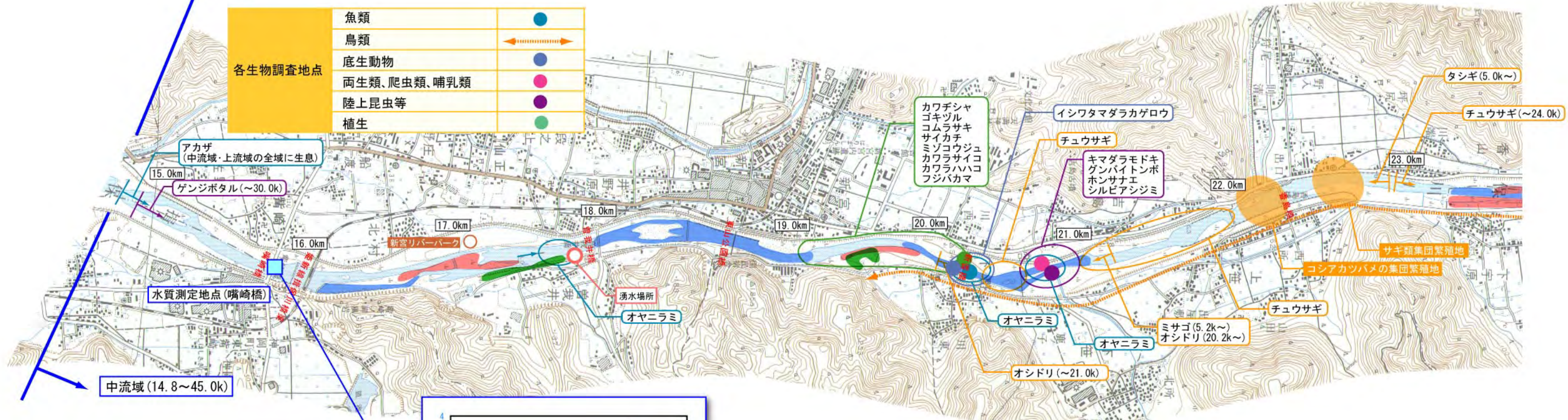
栗栖川合流部から中流域に入る揖保川は、上流に向かうにつれ川幅を狭めつつ、ゆるやかに蛇行を繰り返す。兩岸には畑地、集落地が存在し、山がせまる。河東大橋付近は河床が起伏し「十二波」と呼ばれる景勝地となっている。

本区間では、流水の影響を最も受けやすいレキ原にツルヨシ（一般種）群落、砂礫地にはカワラヨモギ（一般種）群落が見られる。カワラヨモギ群落内にはカワラハハコ、カワラサイコ等の貴重な植物が見られる。この砂礫地ではセグロセキレイ、イカルチドリ（以上、一般種）等が見られる。

水際のヨシ原は、貴重な鳥類であるオオヨシキリの繁殖場や、ギギ（一般種）等の魚類の昼間時の隠れ場所になっていると考えられる。このほか、清流性のカジカガエルや、カワセミ、ゲンジボタル（以上、貴重種）等も見られる。

なお、高水敷では貴重な昆虫類のシルビアシジミが確認されており、土手部に生育するミヤコグサ（一般種）を食草としていると考えられる。

各生物調査地点	
魚類	●
鳥類	←→
底生動物	●
両生類、爬虫類、哺乳類	●
陸上昆虫等	●
植生	●



中流域の陸上昆虫類

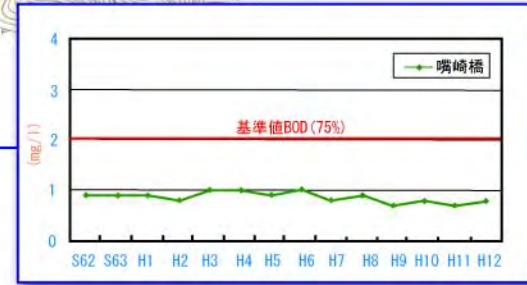
平地から山地の水域に生息するニシカワトンボ、コオニヤンマ等が見られる。砂礫地という環境を反映し、イボバッタ、クロミズギワゴミムシ等が見られる。また、ヤナギに依存するヤナギチビタマムシ、ヤナギリハマシ等が確認されている。貴重な種として土手部のミヤコグサを食草とするホンサナエ、シルビアシジミ等が確認されている。



凡 例	
河畔林	■
干 潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
ヨシ原（一時的なツルヨシ・ヨシ群落）	■
公園	○
水質測定地点	■
ヒヤリング結果	○

中流域の植物

中流域の代表的な自然植生であるカワラヨモギ群落がまとまった面積で見られる。この群落内にはカワラハハコ、カワラサイコ等の貴重な植物が見られる。また、水際にはツルヨシ群落が見られ、鳥類、魚類等の多くの生物の生息場・繁殖場等となっている。



中流域の鳥類

ハクセキレイ、セグロセキレイは一年中、水辺や田んぼ等で見られ、中流域に多くいる。



中流域を代表する種（一般種）

代表種	代表種	代表種
カワムツB型 コイ ギンブナ オйкаワ ウグイ アユ カワヨシノボリ ドンコ ギギ	ニシカワトンボ コオニヤンマ クササギ クルマバッタモドキ イボバッタ クロミズギワゴミムシ ヤナギチビタマムシ ヤナギリハマシ	底生動物 モンカゲロウ キイロカワカゲロウ アカダラカゲロウ コガタシマトビゲラ属の一種 ヒゲナガカワトビゲラ ウルマーシマトビゲラ
カイツブリ カルガモ サギ類 タヒバリ セッカ カワラヒワ ホオジロ イカルチドリ ハクセキレイ セグロセキレイ キジバト ヒヨドリ	イシガメ クサガメ ヌートリア カナヘビ アマガエル タヌキ キツネ コウベモグラ カヤネズミ	植物 セイタカアワダチソウ カラムシ クワイモ ツルヨシ ミゾソバ ヤナギタデ オオイヌタデ カナムグラ アカメヤナギ ネコヤナギ ジャヤナギ マダケ モウソウチク カワラヨモギ

※地図に示す動植物は、貴重種の中にもみる代表種

河川環境情報図〔広域図〕 揖保川—No. 5

SCALE 1:25,000

中流域

栗栖川合流部から中流域に入る揖保川は、上流に向かうにつれ川幅を狭めつつ、ゆるやかに蛇行を繰り返す。両岸には畑地、集落地が存在し、山がせまる。河東大橋付近は河床が起伏し「十二波」と呼ばれる景勝地となっている。

本区間では、流水の影響を最も受けやすいレキ原にツルヨシ（一般種）群落、砂礫地にはカワラヨモギ（一般種）群落が見られる。カワラヨモギ群落内にはカワラハハコ、カワラサイコ等の貴重な植物が見られる。この砂礫地ではセグロセキレイ、イカルチドリ（以上、一般種）等が見られる。

水際のヨシ原は、貴重な鳥類であるオオヨシキリの繁殖場や、ギギ（一般種）等の魚類の昼間時の隠れ場所になっていると考えられる。このほか、清流性のカジカガエルや、カワセミ、ゲンジボタル（以上、貴重種）等も見られる。

なお、高水敷では貴重な昆虫類のシルビアシジミが確認されており、土手部に生育するミヤコグサ（一般種）を食草としていると考えられる。

中流域の魚類(ギギ)

全長約20cm。口ひげが4対あり、背びれの後ろにあぶらびれというもう一つのひれがある。また、背びれと胸びれに鋭いトゲを持っている。流れのゆるやかな場所の石のすき間に棲み、底生動物や小魚等を食べる。



中流域の底生動物

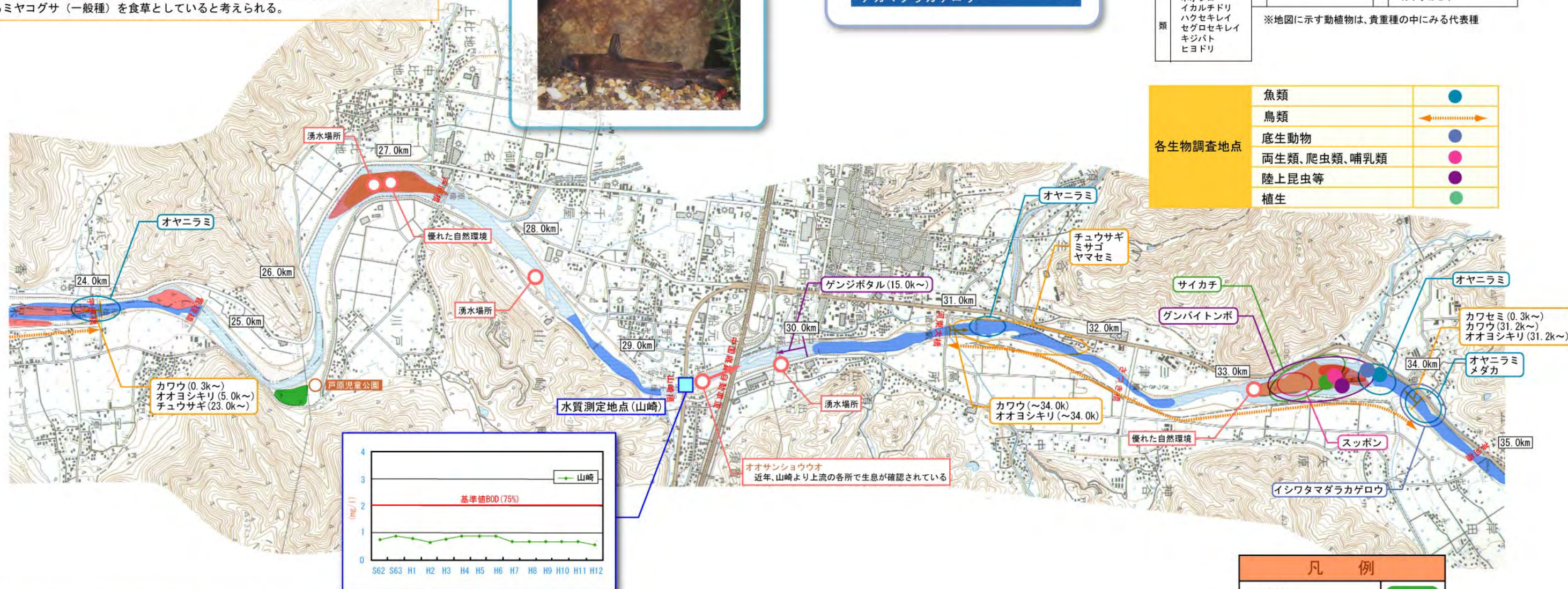
中流域の瀬では下流域と同様にアカマダラカゲロウが多くみられるが、ヒゲナガカワトビゲラなどの流速の早い浮き石に生息する種も多くみられる。淵では、トウヨウモンカゲロウのかわりにモンカゲロウがみられるようになる。



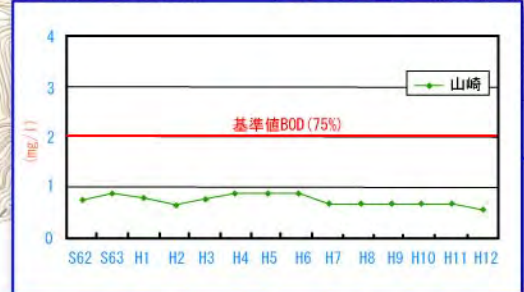
中流域を代表する種(一般種)

代表種	代表種	代表種
カウムツ目型 コイ ギンブナ オイカワ ウグイ アユ カワヨシノボリ ドンコ ギギ	ニシカワトンボ コオニヤンマ クササリ クルマバッタモドキ イボバツタ クロミズギョゴミムシ ヤナギチビタマムシ ヤナギルリハムシ	底生動物 モンカゲロウ キロカワカゲロウ アカマダラカゲロウ コガタシマトビゲラ属の一種 ヒゲナガカワトビゲラ ウルマシマトビゲラ
カイツブリ カルガモ サギ類 タヒバリ セッカ カワラヒワ ホオジロ イカルチドリ ハクセキレイ セグロセキレイ キジバト ヒヨドリ	イシガメ クサガメ ヌートリア カナヘビ アマガエル タヌキ キツネ コウベモグラ カヤネズミ	植物 セイタカアワダチソウ カラムシ ククイモ ツルヨシ ミソソバ ヤナギタデ オオイヌタデ カナムグラ アカメヤナギ ネコヤナギ ジャヤナギ マダケ モウソウチク カワラヨモギ

※地図に示す動植物は、貴重種の中にみる代表種



各生物調査地点	魚類	鳥類	底生動物	両生類、爬虫類、哺乳類	陸上昆虫等	植生
	●	◀▶	●	●	●	●



中流域の陸上昆虫類(ゲンジボタル: 貴重種)

幼虫の期間は、約10ヶ月で、胸の前にトランプのスペードの模様があり、成虫は胸に十字の黒斑がある。



ゲンジボタル(貴重種)

中流域の鳥類

草本群落ではタヒバリ、セッカ、カワラヒワ、ホオジロ等の草地を好む鳥類が生息しており、水際のツルヨシ群落はオオヨシキリ、カモ類、カイツブリ等の繁殖場所となっている。また、ヤナギ林ではキジバトやヒヨドリ等の好樹林性の鳥類が生息しており、河原はイカルチドリやセキレイ類が繁殖場所や餌場として利用している。水域では、淵等の静水域をカワウ、カイツブリ、カモ類等が休息場所や餌場として利用しており、瀬はサギ類が餌場として利用している。水辺と関わり深い貴重種としては、チュウサギやカワセミが確認されている。



チュウサギ(貴重種)

凡例	
河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
ヨシ原(一団的なツルヨシ・ヨシ群落)	■
公園	○
水質測定地点	■
ヒヤリング結果	○

中流域

栗栖川合流部から中流域に入る揖保川は、上流に向かうにつれ川幅を狭めつつ、ゆるやかに蛇行を繰り返す。両岸には畑地、集落地が存在し、山がせまる。河東大橋付近は河床が起伏し「十二波」と呼ばれる景勝地となっている。

本区間では、流水の影響を最も受けやすいレキ原にツルヨシ（一般種）群落、砂礫地にはカワラヨモギ（一般種）群落がみられる。カワラヨモギ群落内にはカワラハハコ、カワラサイコ等の貴重な植物がみられる。この砂礫地ではセグロセキレイ、イカルチドリ（以上、一般種）等がみられる。

水際のヨシ原は、貴重な鳥類であるオオヨシキリの繁殖場や、ギギ（一般種）等の魚類の昼間時の隠れ場所になっていると考えられる。このほか、清流性のカジカガエルや、カワセミ、ゲンジボタル（以上、貴重種）等もみられる。

なお、高水敷では貴重な昆虫類のシルビアシジミが確認されており、土手部に生育するミヤコグサ（一般種）を食草としていると考えられる。

中流域の魚類

近畿地方の河川の中流域に比較的普通に見られる魚類相となっているが、上流域を生息場とするスナヤツメやオヤニラミといった貴重種の生息も確認されている。オヤニラミはヨシ等の水生植物に生息し、スナヤツメは水質の清浄な場所に生息している。中流域の瀬では、アユ、オイカワ、ウグイ、カワヨシノボリ等が見られ、淵では、カワムツB型、コイ、ギンブナ等が見られる。水際に見られるツルヨシ等の水生植物群落は、ドンコ等の生息環境、ギギ等夜行性魚類の隠れ場所、コイやギンブナ等の産卵場所、多くの魚類の稚魚の生育場等多くの機能を持っている。



魚類	●
鳥類	←→
底生動物	●
両生類、爬虫類、哺乳類	●
陸上昆虫等	●
植生	●



中流域を代表する種(一般種)

代表種	代表種	代表種
カワムツB型	ニシカワトンボ	モンカゲロウ
コイ	コオニヤンマ	キイロカワカゲロウ
ギンブナ	クサキリ	アカマダラカゲロウ
オイカワ	クルマバツタモドキ	コガタシマトビゲラ属の一種
ウグイ	イボバツタ	ヒゲナガカワトビゲラ
アユ	クロミズギワゴミムシ	ウルマーシマトビゲラ
カワヨシノボリ	ヤナギチビタマムシ	
ドンコ	ヤナギルリハムシ	
ギギ		
カイツブリ	イシガメ	セイタカアワダチソウ
カルガモ	クサガメ	カラムシ
サギ類	ヌートリア	キクイモ
タヒバリ	カナヘビ	ツルヨシ
セッカ	アマガエル	ミゾソバ
カワラヒワ	タヌキ	ヤナギタデ
ホオジロ	キツネ	オオイヌタデ
イカルチドリ	コウベモグラ	カナムグラ
ハクセキレイ	カヤネズミ	アカメヤナギ
セグロセキレイ		ネコヤナギ
キジバト		マダケ
ヒヨドリ		モウソウチク
		カワラヨモギ

※地図に示す動植物は、貴重種の中のみみる代表種

凡例

河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
ヨシ原(一時的なツルヨシ・ヨシ群落)	■
公園	○
水質測定地点	■
ヒヤリング結果	○

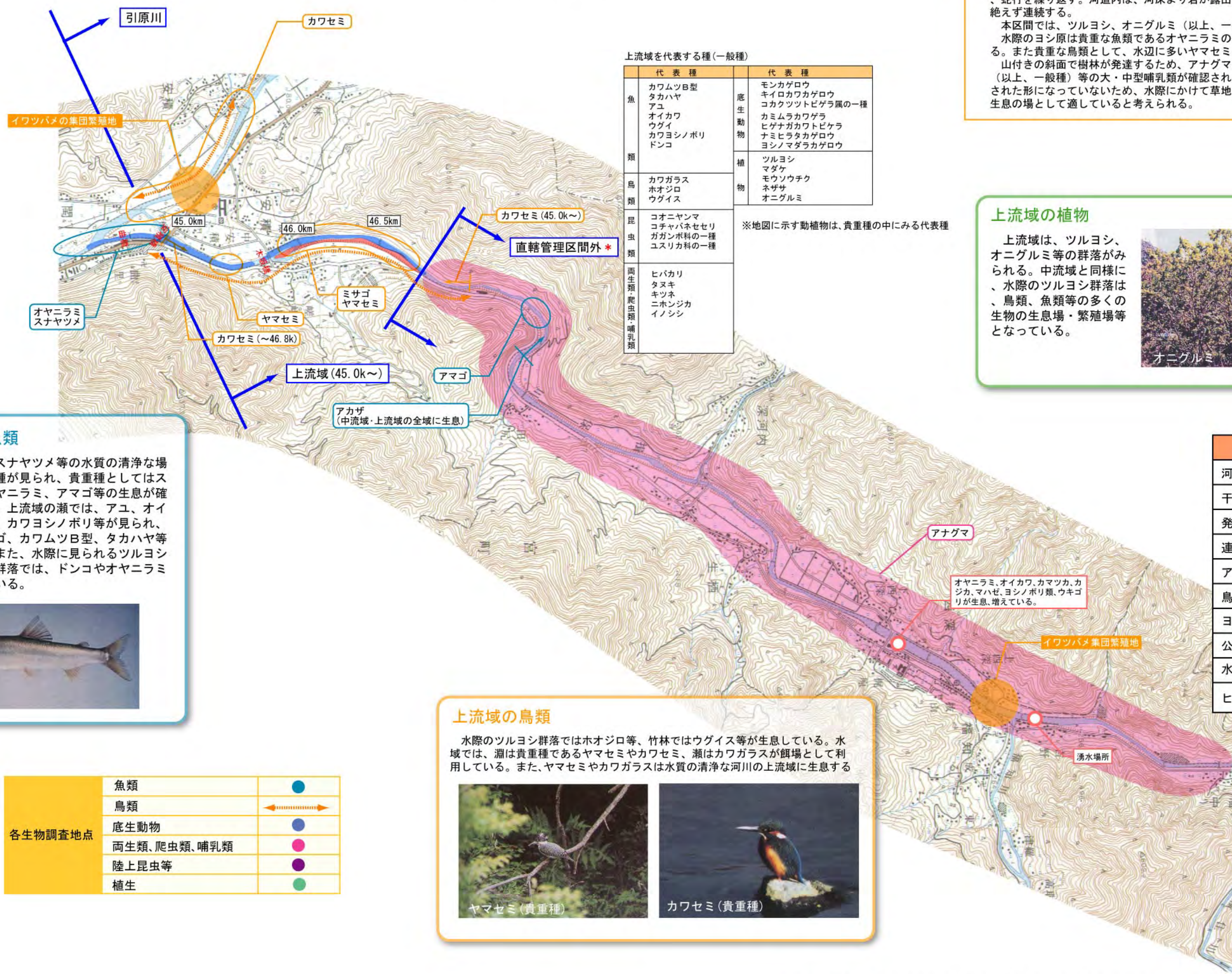
中流域の両生類・爬虫類・哺乳類

草本群落にアマガエル、カナヘビ、カヤネズミ、コウベモグラ、タヌキ、キツネ等、ヤナギ林にタヌキやキツネが生息している。また、水辺やツルヨシ等の水生植物付近では、イシガメ、クサガメ、ヌートリア等が生息している。貴重種としては、オオサンショウウオ、カジカガエルと言った種が確認されている。これらは河川への依存度が高く、水質が清浄である山地溪流的な場所に生息している。



河川環境情報図〔広域図〕 揖保川—No. 7

SCALE 1:25,000



上流域

引原川合流部より上流域となるこの区間は、兩岸のほとんどに山がせまりながら、蛇行を繰り返す。河道内は、河床より岩が露出する溪流の様相をみせ、瀬と淵が絶えず連続する。

本区間では、ツルヨシ、オニグルミ（以上、一般種）等の群落のみられる。水際のヨシ原は貴重な魚類であるオヤニラミの生息場所となっていると考えられる。また貴重な鳥類として、水辺に多いヤマセミ、カワセミ等が確認されている。山付きの斜面で樹林が発達するため、アナグマ（貴重種）やニホンジカ、イノシシ（以上、一般種）等の大・中型哺乳類が確認されている。河岸にせまるものの分断された形になっていないため、水際にかけて草地等と続く環境は、これらの動物の生息の場として適していると考えられる。

上流域を代表する種（一般種）

代表種	代表種
カワムツB型 タカハヤ アユ オイカワ ウグイ カワヨシノボリ ドンコ	底生動物 モシムラカワケラ ヒゲナガカワトビケラ ナミヒラタカゲロウ ヨシノマダラカゲロウ
カワガラス ホオジロ ウグイス	植 ツルヨシ マダケ モウソウチク ネザサ オニグルミ
コオニヤンマ コチャバネセセリ ガガンボ科の一種 ユスリカ科の一種	※地図に示す動植物は、貴重種の中のみる代表種
ヒバカリ タヌキ キツネ ニホンジカ イノシシ	

上流域の植物

上流域は、ツルヨシ、オニグルミ等の群落のみられる。中流域と同様に、水際のツルヨシ群落は、鳥類、魚類等の多くの生物の生息場・繁殖場となっている。



オニグルミ

上流域の魚類

タカハヤ、スナヤツメ等の水質の清浄な場所に生息する種が見られ、貴重種としてはスナヤツメ、オヤニラミ、アマゴ等の生息が確認されている。上流域の瀬では、アユ、オイカワ、ウグイ、カワヨシノボリ等が見られ、淵では、アマゴ、カワムツB型、タカハヤ等が見られる。また、水際に見られるツルヨシ等の水生植物群落では、ドンコやオヤニラミ等が生息している。



アユ

各生物調査地点	魚類	鳥類	底生動物	両生類、爬虫類、哺乳類	陸上昆虫等	植生
	●	◀▶	●	●	●	●

上流域の鳥類

水際のツルヨシ群落ではホオジロ等、竹林ではウグイス等が生息している。水域では、淵は貴重種であるヤマセミやカワセミ、瀬はカワガラスが餌場として利用している。また、ヤマセミやカワガラスは水質の清浄な河川の上流域に生息する



ヤマセミ（貴重種）



カワセミ（貴重種）

凡例	
河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
ヨシ原（一時的なツルヨシ・ヨシ群落）	■
公園	○
水質測定地点	■
ヒヤリング結果	○

上流域

引原川合流部より上流域となるこの区間は、兩岸のほとんどに山がせまりながら、蛇行を繰り返す。河道内は、河床より岩が露出する溪流の様相をみせ、瀬と淵が絶えず連続する。

本区間では、ツルヨシ、オニグルミ（以上、一般種）等の群落のみられる。実際のヨシ原は貴重な魚類であるオヤニラミの生息場所となっていると考えられる。また貴重な鳥類として、水辺に多いヤマセミ、カワセミ等が確認されている。山付きの斜面で樹林が発達するため、アナグマ（貴重種）やニホンジカ、イノシシ（以上、一般種）等の大・中型哺乳類が確認されている。河岸にせまるものの分断された形になっていないため、水際にかけて草地等と続く環境は、これらの動物の生息の場として適していると考えられる。

上流域を代表する種（一般種）

代表種	代表種
魚	底生動物
カワムツB型 タカハヤ アユ オйкаワ ウグイ カワヨシノボリ ドンコ	モンカゲロウ キイロカワカゲロウ コカクツツビゲラ属の一種 カミムラカワケラ ヒゲナガカワトビケラ ナミヒラタカゲロウ ヨシノマダラカゲロウ
鳥類	植物
カワガラス ホオジロ ウグイス	ツルヨシ マダケ モウソウチク ネザサ オニグルミ
昆虫類	
コオニヤンマ コチャバナセセリ ガガンボ科の一種 ユスリカ科の一種	※地図に示す動植物は、貴重種の中のみる代表種
両生類・爬虫類・哺乳類	
ヒバカリ タヌキ キツネ ニホンジカ イノシシ	



上流域の陸上昆虫類

山地を流れる水域に生息するコオニヤンマ、ハネピロエソトンボ等がみられる。竹林では、コチャバナセセリ、ガガンボ科の一種、ユスリカ科の一種といった比較的暗い環境を好む種がみられる。貴重種として、ウスバシロチョウ、キベリハムシが確認されている。

ウスバシロチョウ(貴重種)

キベリハムシ(貴重種)

凡例

河畔林	
干 潟	
発達した中州	
連続する瀬と淵	
アユの産卵場所	
鳥類のねぐら	
ヨシ原(一体的なツルヨシ・ヨシ群落)	
公園	
水質測定地点	
ヒヤリング結果	

各生物調査地点

魚類	
鳥類	
底生動物	
両生類、爬虫類、哺乳類	
陸上昆虫等	
植生	

上流域の両生類・爬虫類・哺乳類

周辺の山林と隣接している場所が多いため、水生植物群落ではヒバカリ、竹林ではタヌキやキツネ等が生息している。周辺の山地では、哺乳類であるアナグマ（貴重種）、ニホンジカ、キツネ、タヌキ、イノシシが生息している。

アナグマ(貴重種)

上流域の魚類(カジカ：貴重種)

全長約15cm。大型卵と小型卵の2つの型があり、上流の石礫底に棲むものは大型卵で、一生を渓流域で暮らす。肉食性で水生昆虫や小魚等を食べる。

カジカ(貴重種)

* 図面に記載する直轄管理区間外上流域(水辺の国勢調査範囲外)は第2~4回自然環境保全基礎調査情報とした

上流域

引原川合流部より上流域となるこの区間は、兩岸のほとんどもに山がせまりながら、蛇行を繰り返す。河道内は、河床より岩が露出する溪流の様相をみせ、瀬と淵が絶えず連続する。
 本区間では、ツルヨシ、オニグルミ（以上、一般種）等の群落が見られる。
 水際のヨシ原は貴重な魚類であるオヤニラミの生息場所となっていると考えられる。また貴重な鳥類として、水辺に多いヤマセミ、カワセミ等が確認されている。
 山付きの斜面で樹林が発達するため、アナグマ（貴重種）やニホンジカ、イノシシ（以上、一般種）等の大・中型哺乳類が確認されている。河岸にせまるものの分断された形になっていないため、水際にかけて草地等と続く環境は、これらの動物の生息の場として適していると考えられる。

各生物調査地点	魚類	●
	鳥類	←→
	底生動物	●
	両生類、爬虫類、哺乳類	●
	陸上昆虫等	●
	植生	●

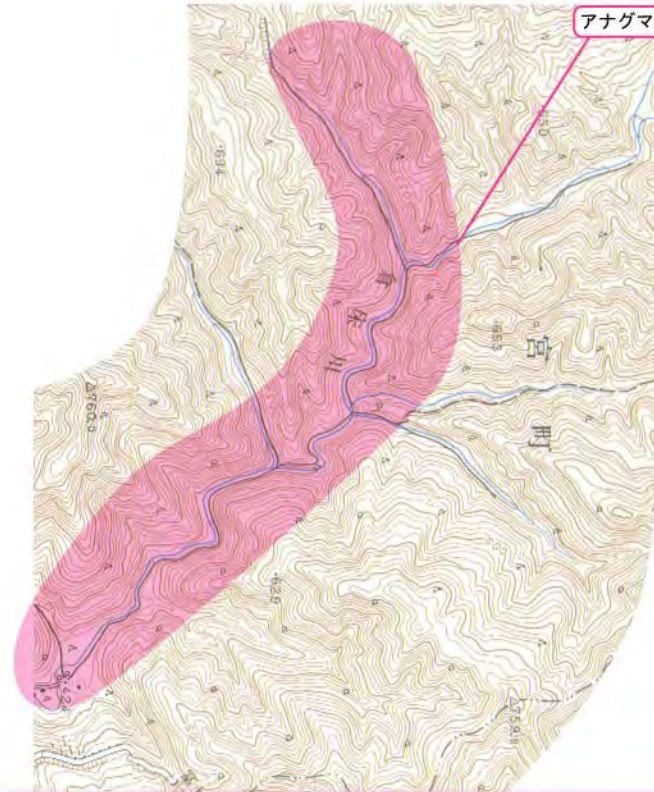
凡例	
河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
ヨシ原（一体的なツルヨシ・ヨシ群落）	■
公園	○
水質測定地点	□
ヒヤリング結果	○

上流域の魚類（アマゴ：貴重種）

全長約20cm。関西の溪流を代表する魚である。「溪流の女王」と呼ばれるヤマメとよく似ているが、体表にあざやかな朱点があることで区別ができる。流れてくる水生昆虫や、水面に落ちてくる昆虫等を食べる。



アマゴ（貴重種）



上流域の両生類・爬虫類・哺乳類

周辺の山林と隣接している場所も多いため、水生植物群落ではヒバカリ、竹林ではタヌキやキツネ等が生息している。周辺の山地では、哺乳類であるアナグマ（貴重種）、ニホンジカ、キツネ、タヌキ、イノシシが生息している。



ニホンジカ



タヌキ



キツネ

上流域の底生動物

上流域の瀬では、ヒゲナガカワトビケラやナミヒラタカゲロウが多く、カミムラカワゲラをはじめとしてカワゲラ類も多くみられる。淵では、モンカゲロウ、キイロカワカゲロウ、コカクツツビケラ属の一種などがみられる。



ヒゲナガカワトビケラ

上流域を代表する種（一般種）

	代表種	代表種
魚	カワムツB型	モンカゲロウ
	タカハヤ	キイロカワカゲロウ
	アユ	コカクツツビケラ属の一種
	オイカワ	カミムラカワゲラ
	ウグイ	ヒゲナガカワトビケラ
	カワヨシノボリ	ナミヒラタカゲロウ
底生動物	ドンコ	ヨシノマダラカゲロウ
		ツルヨシ
鳥類	カワガラス	マダケ
	ホオジロ	モウソウチク
	ウグイス	ネザサ
		オニグルミ
昆虫類	コオニヤンマ	
	コチャバネセセリ	
	ガガンボ科の一種	
	ユスリカ科の一種	
両生類・爬虫類・哺乳類	ヒバカリ	
	タヌキ	
	キツネ	
	ニホンジカ	

※地図に示す動植物は、貴重種の中のみる代表種

河川の区分けとその理由
 河口から2.8kの浜田井堰までは感潮域で、上流側に分派地点を有する。河床勾配は1/1400~1/700程度である。2.8kより上流の14.8k間では、比較的大きな支川である林田川、栗栖川を併せ平地部を流下しており、川幅もこの区間の上流側より広く、河床勾配も1/600~1/300程度である。14.8kより上流の45.0kまでは引原川合流後、山間部の谷底平野を流下しており、河床勾配も約1/200程度である。45.0kより上流部では、山間部を流下しており、河床勾配も約1/100以上の勾配となっている。したがって、河口~2.8k区間を感潮域、2.8k~14.8k区間を下流域、14.8k~45.0k区間を中流域、それより上流部を上流域に区分した。

* 図面に記載する直轄管理区間外上流域（水辺の国勢調査範囲外）は第2~4回自然環境保全基礎調査情報とした

河川環境情報図〔広域図〕 林田川

1:25,000

林田川を代表する種(一般種より)

代表種
鳥類
カルガモ
コガモ
ヒドリガモ
ハクセキレイ
セグロセキレイ
スズメ
ムクドリ
キジバト
ヒヨドリ
セッカ
ホオジロ
カワラヒワ
植物
ツルヨシ
ヤハズソウ
ジャヤナギ
セイタカアワダチソウ
ヤブガラシ
カナムグラ
クサヨシ
キシュウズメノヒエ
マダケ
モウソウチク
ノイバラ

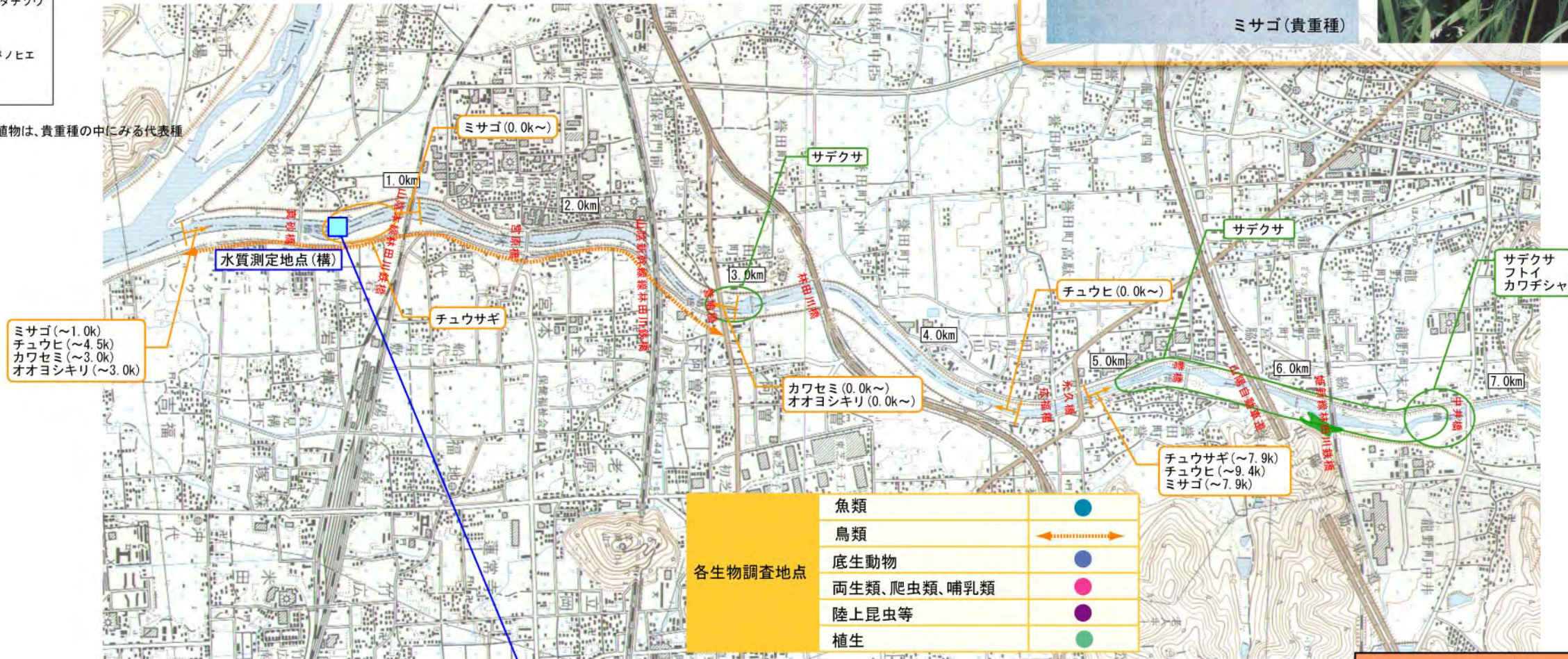
※地図に示す動植物は、貴重種の中のみ代表種

林田川

安富町、姫路市、龍野市、太子町を流下し、揖保川に合流する林田川は、平成6年にスタートした「清流ルネッサンス21(揖保川・林田川水環境改善緊急行動計画)」により、水質改善が進み、河川内植物相も豊かになる等、多くの動植物が生息・生育するようになった。

- 植生環境
0~3.0kmは、ヤハズソウ群落、カナムグラ群落やセイタカアワダチソウ群落等が広く生育している。又、3.0km以上になると、カナムグラ群落が占めるようになる中、イネ科草原であるクサヨシ群落やツルヨシ群落が広がってくる。
- 陸域環境
水際のツルヨシ群落を繁殖の場とするオオヨシキリをはじめ、チュウサギ、カワセミ等貴重な種に指定される鳥類を多くみることができる。

※林田川では、鳥類及び植物調査(河川水辺の国勢調査)のみ実施されている



林田川の鳥類

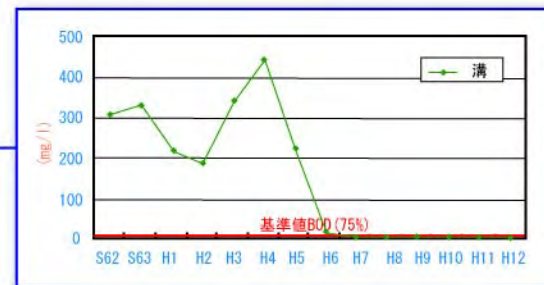
草本群落ではセッカ、カワラヒワ、ホオジロ等の草地を好む鳥類が生息しており、水際のツルヨシ群落はオオヨシキリ、カモ類等の繁殖場所となっている。又、水辺と関わりの深い貴重種としてミサゴ、チュウサギ、カワセミ等が確認されている。



林田川の植物

下流域(0~3.0km付近)には、一年生草本群落であるヤハズソウ群落、カナムグラ群落やセイタカアワダチソウ群落が広く生育している。又、中流域(3.0km~)以上になると、下流域の植物相に加え、水際にツルヨシ群落やクサヨシ群落、キシュウズメノヒエ群落が広がってくる。

貴重種としてサデクサ、フトイ、カワヂシャが確認されている。



河畔林	■
干潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	○
鳥類のねぐら	○
ヨシ原(一帯的なツルヨシ・ヨシ群落)	■
公園	○
水質測定地点	■
ヒヤリング結果	○

河川環境情報図〔広域図〕 栗栖川

1:25,000

栗栖川を代表する種(一般種より)

代表種
セイタカアワダチソウ
ヤブガラシ
ヤナギタデ
カナムグラ
ツルヨシ
ジャヤナギ
マダケ
ノイバラ
クサヨシ

栗 栖 川

山間を縫うようにゆるやかに蛇行をくり返しながら流下する栗栖川は、両岸には畑地、集落地が存在し、山がせまる。

○植生環境
川幅100mに満たない河道内には、クサヨシ群落やカナムグラ群落、ノイバラ群落が優占し、水際にはツルヨシ群落広がる。

※栗栖川では、植物調査(河川水辺の国勢調査)のみ実施されている

各生物調査地点	記号
魚類	●
鳥類	↔
底生動物	●
両生類、爬虫類、哺乳類	●
陸上昆虫等	●
植生	●

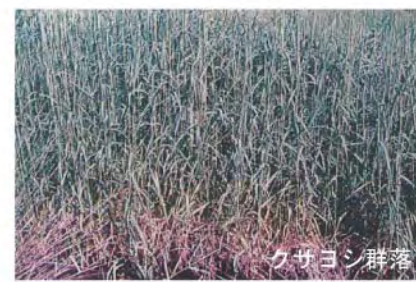


栗栖川の植物

下流域(0~3.0km付近)は、そのほとんどをクサヨシ群落に優占する。その間隙をセイタカアワダチソウ群落が生息している。中流域(3.0km~)になると、カナムグラ群落、ノイバラ群落が優占するようになる。又、中・上流域(6.0km~)になると、ツルヨシ群落が水際を優占してくる。



ツルヨシ群落



クサヨシ群落

凡 例	
河畔林	■
干 潟	■
発達した中州	■
連続する瀬と淵	■
アユの産卵場所	■
鳥類のねぐら	■
貴重種	★
ヨシ原(一団的なツルヨシ・ヨシ群落)	■
公 園	○
水質測定地点	■
ヒヤリング結果	○